



安穩の未来

川添 泰信 (かわそえ たいしん)

はじめに

親鸞聖人 750 回大遠忌^{だいおんき}のスローガンは「世のなか安穩^{あんのん}なれ」です。「安穩」については「安らかにおだやかなこと」「無事」の意味をみることができます。それゆえ端的には「人々のすむ世界が、何事もなく平和であってほしい」ということになります。

1, 望まれたもの

人間の歴史は、人間にとっていかに便利で快適で平和な生活を^{いと}営むことができるか、に向けて大いなる努力がなされてきました。現代は人間が持つ知性によって、その環境はかつての人々が営んでいた生活にくらべ、衣食住のすべてにわたって、はるかに便利で快適で平和な生活を営むことができるようになりました。それは人間がより人間らしく生きることができるようになったことでもあります。そしてこのことは、ひとえに人間に本質として備わっている知的探求心によって築かれてきたということができるでしょう。このように人間が追い求め望んだ生活は、人間の本質として持っている知的探求心にもとづくものですから、人間の歴史が続く限り、絶えることなく今後も続いていくものです。しかも追い求め望んだ生活は、人間にとって望まれるもの、善いものとして考えられるので、決して自らその歩みを止めることはないと思われま

2, 失われたもの

便利で快適で平和な生活を手に入れた現代人は、その満足感の中で多くのものを失ったといわれます。それはかつての人が日々の生活の中で見いだしていた、喜び、悲しみ、驚き、感謝等の思いを感じるものが少なくなったということです。しかしもっとも恐ろしいのは、人間一人ひとりが十分満足した生活をおくることから起こってくる悲劇があるということです。それは満ち足りた生活、満足した人間であるが故に、人を人として見ることができない恐怖です。このことは人の痛み、悲しみ、悩み、苦しみ、恐れを共感することができない人間の出現を意味します。

一つの例をあげるならば、私たちは日々の生活の中で交通事故を見かけることがあります。もしあなたが歩いていたら、事故にあった人のそばにすぐに駆け寄り、何かしらの手助けをしようとするのではないのでしょうか。しかし、もしもあなたが乗り物に乗っていたらどうでしょうか。そこでは「あー事故だ、大丈夫だろうか」と一瞬は思うでしょ

うが、しかし事故の現場を過ぎ去るとともに、事故があったということさえ記憶の外になっているのではないのでしょうか。このことは現代人が乗り物という便利なものを手に入れたことによって起こるものであり、それは人間の痛み、苦しみを共感することができなくなった証^{あかし}の一つであろうと思います。そして悲しみや痛みのみならず、あらゆる人間の心情が共感できなくなるということを示しているのではないのでしょうか。

3, 安穩の未来

人間が望み、本質的に持っている知性によって作り上げた世界は、人間を人間として見ることができない世界を現出させます。とすれば、我々は知性という人間の本質に基づかない新たな標^{しるべ}が必要になってきます。それは人間をこえたものでなければならぬでしょう。なぜなら人間の作り出すものは、すべて人間の本質に根ざした知性によって作り出されるからです。知性にもとづくものは、人間にとって望まれ、善かれと思ってできたものです。しかしそれは人間を無感情な非人間的な姿に導くものでもあった、ということです。それゆえ人間が人間として生きるためには、全く異なった人間の知性を超えたものの提示がなければならぬでしょう。

ここに、親鸞聖人の阿弥陀仏による他力回向の教えがあります。それは人間の知性に基づくものではありません。「安穩」なる世界も、また人間の知性に基づいて開示された世界ではありません。その世界とは、聖徳太子の「共是凡夫^{くぜほんぶ}」として開示された世界であり、また法然聖人の「本願念仏」の世界であり、さらには親鸞聖人の「信心正因^{しんじんしょういん}」の世界です。それは、人間の知性を超えた、無知の知である仏の智慧を根拠とするものです。それを宗教的に表出したのが、阿弥陀仏の光に照らされることによって、徹底した人間の実相として見いだされてくる人間の真実の姿、と同時にそのような人間を間違いなく救う阿弥陀仏による他力回向の世界です。

人間の知性を超えた世界を見いださなければ、人間は加速度的に進化する知的世界によって、より便利で快適で平和な生活を手にすることはできませんが、それゆえに人間の共感する心を喪失し、自ら人間性の破壊を免^{まぬか}れなのではないか、と思われます。親鸞聖人の「世のなか安穩なれ」の世界は、人間が望み求めた彼方の世界にあるのではなく、人間の知性を超えた阿弥陀仏の世界から開示されるものとしてある、ということです。このたびの大遠忌は、親鸞聖人が明かされた真実の人間の世界を拓^{ひら}くものでなければならぬと思います。

(司 教)